

第 1 4 回 長 崎 県 科 学 教 育 展

長崎県教育委員会・佐世保市教育委員会・  
発明協会長県支部・長崎県理科教育協会主催  
で、昭和37年1.1月21.~25日の5日間、  
佐世保市中央公民館ホールで開催された。出  
品総点数686点の内訳は次の通りである。

	佐世保市	他郡市	計	入 選
小	254	132	386	13
中	177	43	220	12
高	2	6	8	2
教 職	26	1.	27	5
参考出品	45	0	45	—
計	504	182	686	32

地学関係の出品は95点(小61, 中31,  
高0, 教職3)であった。一般的の傾向とし  
て、小学校では気象に関するものが多く、低  
学年で“天気しらべ”が圧倒的に多い。高学  
年ではこれに加えて、室内外の温度調べや、  
雲や風向の観察がある。天文としてはせいぜ  
い月の観察がわずかあるのみ。中学校の出品  
では、矢張り気象測定に関するものが多いが、  
風向、風速などの測定器具の作製が目立って  
くる。地質関係は小学高学年と中学に見られ  
るが、岩石、化石の採集が主である。教職の  
部では、月の満欠説明器、潮の干満説明器、  
簡易プラネタリウムなど、教材としての工作  
品のみであった。地学関係の出品の中で入選  
受賞したものが5点あるのでここに寸評を加  
えてみる。

1. 小学校の部

島原半島の土しらべ

島原第三小 3年 松永昌子 (理)

夏休みに行った場所毎の石や土を分類整理  
し、地域毎の特性をよくつかんでいる。

天気しらべ

佐世保戸尾小4年 (市)

毎日の天気の様子を絵日記風に記述し、天  
候と身のまわりの風物の移り変りを巧みに  
つかんだ点はすぐれている。

天気図

上長崎小 6年 片岡光明 (理)

新聞天気図の切抜きの出品は相変わらず多い  
中において、特徴ある気象の移り変りを区分  
分して考察した点は大変よい。

高島の石

西彼高島小 6年 地学クラブ (理)

川のない高島で、河原の石に代る海岸の石  
を定量的に分類し、場所毎に集積の状態が  
違う点を発見している。

2. 中学校の部

長崎市及びその周辺の岩石採集

長崎江平中 3年 野口政志外2名 (理)

とかく散漫になり易い岩石採集を、産地と  
分布に注意を払って行なった点価値がある。  
茂木港周辺の地学的研究

長崎茂木中 3年 科 学 部 (県)

展示した岩石標本は質・量共に優秀である  
が、更に現地の各種地質現象を正確に観察  
し、模式化して図示した点は従来見られな  
かった画期的研究である。

- ① 長崎県教育委員会賞
- ② 佐世保市教育委員会賞
- ③ 長崎県理科教育協会賞

審査経過報告 (11月25日 於表彰式)

今回の科学教育展には、地元佐世保工業高校よりの参考出品45点を含めて、686点にも及ぶ多数の出品があり、さしも広い中央公民館ホール内に収容しきれず、展示品が廊下や階段にまではみ出す程の盛況で、科学振興が叫ばれている現在、甚だよろこばしい次第であります。

去る20日、出品物の搬入が終ると直ちにこれらの研究物や作品に対し、長崎大学外山教授(植物)・山口助教授(動物)・鎌田助教授(地学)・長崎県学校教育課岩永指導主事(物理・化学)が審査員となり、これに佐世保地区の理科担当の10数名の先生方を交えて3時間以上にも亘る審査を行ないました。慎重審議の決果、既に発表されております22点(他に発明協会長崎支部賞10点)に対し、栄誉ある授賞を決定したのであります。

審査にあたって特に感じましたことは、出品された研究報告、記録、標本をはじめ、アイデアに富んだ作品は、いずれも長期間の研究の結晶といえるものであり、出品された児童、生徒諸君のためまぬ努力に敬服すると共に、指導に当られた先生や父兄の方々の温情あふるゝ御熱意の程が汲みとれるのであります。

自然科学を学ぶ出発点は、自然界の様々な現象の忠実な観察にあります。その上これらの観察を足場として自然界を支配する方則を見出して行かねばなりません。また更に法則の妥当性を実験によって証明して行かね

ばならないでしょう。今回の第14回科学教育展の審査に当りましても、この“自然現象の正しい理解”という点に基準をおいて見せて頂いたつもりです。

展示物の中には、非常に多くの観察記録や標本があります。例えば、昆虫・貝類・植物などの生物標本、岩石・鉱物・化石などの地質標本、天候・気温・水温などの気象観測の記録などが沢山出ております。自然を理解する上には、記録や採集は、研究の第一歩を踏み出したということであり、これ自体貴重な体験をしたのに違いはないのですが、大事なのはどの様に科学的知識として発展させて行くかということです。

入賞作品はどれもこの点、自然界の因果関係といえますか——生物にあっては生態的な見方、地学にあっては地域性とか環境との関連性——について、非常に立派な研究をされていると同時に、無駄なくまとめておられます。また物理・化学分野においては、色々な条件で実験を重ねたあげく、最も目的に合った要素を見出すことに努力された跡が、ありありと分るのであります。

また科学教材に関する作品も多数ありましたが、この分野では、出来ることなら作品を使用して測定や実験を行なった際どんな結果が出たか、またどんな成果を挙げることができたかを知らせて頂きたかったと思います。

いかなる研究も一人よがりのものでは充分成果が期待できません。やはり経験豊かな先方の指導があってこそ、生徒諸君の力が飛躍的に伸びて行くものと信じます。現場の理科担当の先生方には、それぞれの学年に応じた適切な御指導をされて、発育盛りの科学する意欲を存分に育て、頂き、明年度もまた更に立派な研究の発表を寄せられますことを期待する次第であります。(鎌田泰彦)